

日本の外国人看護師候補者受け入れ制度に対する看護学生の受け止め

キーワード：外国人看護師候補者、受け入れ制度、看護学生の受け止め

○伊藤まりな¹⁾、中村悦子²⁾

済生会新潟第二病院¹⁾ 新潟青陵大学²⁾

I 目的

近年、日本において東南アジア諸国との自由貿易協定（FTA）、経済連携協定（EPA）の進展により外国人看護師、介護士の就労が可能となってきた。来日した外国人看護師候補者は3年間で日本の看護国家試験に合格し看護師の免許を取得できれば日本で看護師として就労できる。

グローバリゼーションが進む中で、外国人看護師と共に勤務する機会が普通に訪れようとしている。こうしたことを背景に、看護学生が外国人看護師候補者の受け入れ制度について、どのように受け止めているのかを明らかにし、国際感覚育成のための一助としたい。

II 方法

調査期間は2011年7月～8月。対象はA大学看護学科の学生261人で、質問紙による集合調査で回収箱を準備し実施した。調査内容は①外国人受け入れ制度に対する賛否とその理由②外国人受け入れに期待する成果（4項目）である。「はい」「いいえ」で回答し回答の理由について自由記述してもらった。分析方法は、受け入れ制度に対する賛否別に、各質問項目の回答の割合を算出し比較した。また、自由記述は内容の類似性によりカテゴリー化した。

倫理的配慮について、調査内容は無記名とし個人が特定されないよう配慮すること、本研究の目的以外に使用しないこと、本研究終了後、シュレッダーにかけ処理することを文書と口頭で説明した。また、研究への参加は自由であることを付け加えた。

III 結果

アンケートの回収数（回収率）は196人（75%）であった。

1. 対象の属性 男性19人、女性177人であった。学年別では、1年生71人、2年生78人、4年生47人で、平均年齢は22.6歳であった。

2. 外国人看護師候補者受け入れ制度の賛否と理由

1) 賛成は160人（81.6%）、反対は36人（18.4%）であった。

2) 受け入れ賛成の理由

賛成の理由の自由記述は144件のコードであった。「看護に国籍・人種は関係ない」「新発見がある」「国際化・国際交流」「看護師不足」「外国人患者の対応が可能」「モチベーションの向上・刺激になる」「医

療水準、看護の質の向上」「日本での学びを自国に活かしてほしい」の8つカテゴリーが抽出された。

3) 受け入れ反対の理由

反対の理由の自由記述は27件のコードであった。「コミュニケーションの壁」「患者の抵抗感」「日本人の働く場の縮小」「外国人に対するマイナスのイメージ」の4つカテゴリーが抽出された。

3. 外国人候補者受け入れに期待する成果

受け入れの賛成者は、「国際貢献になる」145人（90.6%）、「職場の看護職員のモチベーションを上げる」145人（90.6%）、「職場が活性化する」143人（89.4%）、「看護の質を上げる」135人（84.4%）であった。反対者は、「職場が活性化する」25人（69.4%）、「国際貢献になる」23人（63.9%）、「職場の看護職員のモチベーションを上げる」22人（61.1%）、「看護の質を上げる」15人（41.7%）であった。いずれも反対者は期待する成果が低かった。

IV 考察

外国人看護師候補者の受け入れ制度に対して、学生の多くが賛成と答えていた。賛成の理由に8のカテゴリーが抽出された。「看護に国籍・人種は関係ない」「国際化、国際交流」などグローバルな視点でのとらえ方や、「新発見ができる」「モチベーションの向上・刺激になる」「医療水準、看護の質の向上」など肯定的な受け止めをしていた。反対と答えた理由に4つのカテゴリーが抽出された。「コミュニケーションの壁」など言語による意思疎通が不十分であることへの不安が考えられた。又、外国人看護師からケアされることに対する「患者の抵抗感」「外国人に対するマイナスのイメージ」は、異なる文化や習慣を持つ人への理解不足や偏見が考えられた。期待する成果では、4つのいずれの項目においても反対者の割合が低く、特に「看護の質を上げる」は賛成者が8割を超えたのに対し、反対者は4割で、その差が大きかった。

グローバルな時代に、協働して仕事をするためには、看護学生が他の国の医療・看護に興味関心を示し、異文化を理解し、国際感覚を育てることが今後の課題と考えられた。

V 結論

1) 外国人受け入れ制度に対して看護学生の多くは賛成し、期待する成果も肯定的であった。

2) 外国人受け入れ制度に反対の学生は、異文化に対するマイナスイメージをもち、抵抗感が見られた。